

代っ子通信

令和6年12月20日

<第43号>

校長 平塚智康

実りの秋から蓄える冬へ

師走に入り、季節はすっかり冬めいてまいりました。

2学期には、様々な体育的行事・文化的行事があり、子どもたちはそれぞれの個性や持ち味、得意な部分を生かしながら、自分らしさを発揮し、たくさんの収穫を得ることができました。また、学習面においても、できるようになったこと、しっかり頭を働かせてがんばったことがたくさんあり、一人ひとりに大きな成長が見られました。

そして、寒い冬に入ります。冬は、「根っこ」を鍛える季節です。基礎学力、道徳的感性、社会性、忍耐力、人間関係力・・・人間としての根幹となる「根っこ」をしっかり伸ばしていきたいものです。冬の間「根っこ」をしっかりと土の中に張っておかないと、春になって美しい花を咲かせることも、青々とした葉を繁らすこともできません。

子どもたちは日々いろんな不安や葛藤を抱えながらも、本当によくがんばっています。また、保護者の皆様には、本校の教育活動に対して、多大なるご支援とご協力をいただきました。いつも本当にありがとうございます。子どもたちの人間としての「根っこ」を鍛えるために、学校としてしなければいけないこと、家庭や地域と連携しながらやっていくこと等を考えながら、今後も教育活動を進めていきたいと思っています。どうか引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

ところで、私たち大人もそうですが、子どもたちも、一人一人様々なストレスを抱えながら日々生活しています。学習のこと、友達関係のこと、家庭環境のこと、習い事のこと・・・ストレスの原因は様々ですが、時には不安が大きくなり、情緒が不安定になったり、逃げ出したくなったりすることもあります。そんな子どもたちにとって、ストレスや不安感がつのり、エネルギーが不足した時の一番の薬は、お父さんやお母さんの温かい愛情です。お子さんの声にしっかり耳を傾け、**がんばりを認め、不安に共感して、ぎゅっと抱きしめてあげるだけで、子どもたちのエネルギーは充電されていきます。**どんな能力の高い教員の指導より、親の深い愛情に勝るものはありません。

さて、25日から冬休みに入りますが、どうぞ家族団らんの温かいお正月をお迎えください。そして、新学期には、家庭のあったかいエネルギーをたくさん充電して、さらに元気いっぱい、やる気いっぱいになった子どもたちとの再会を楽しみにしています。

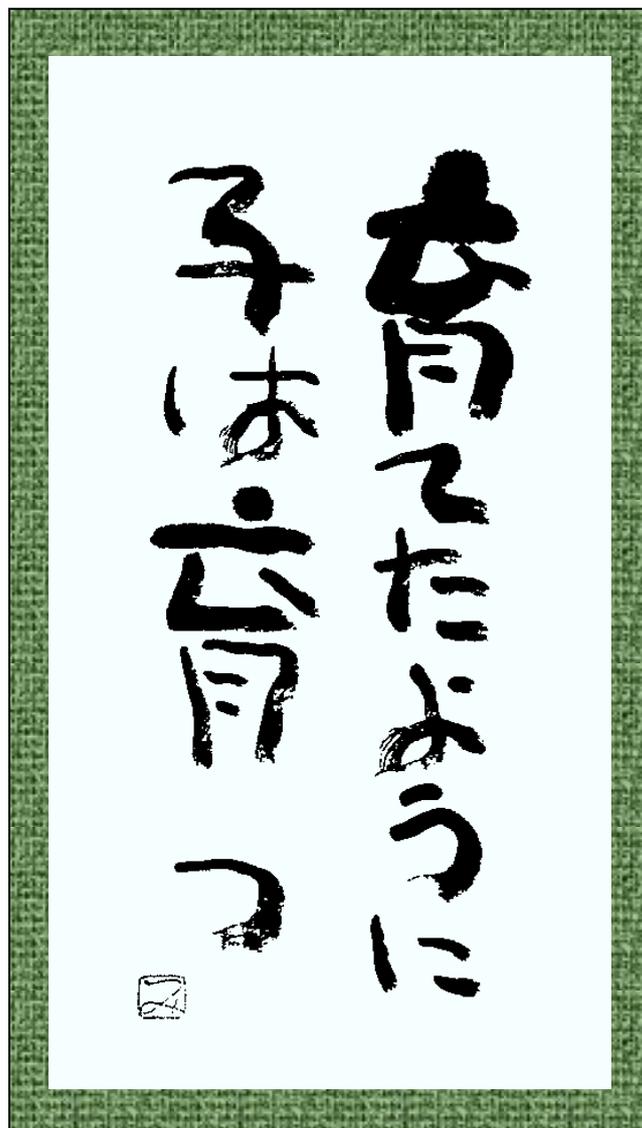


<2年生 さつまいもの収穫>



<5年生 収穫したお米で調理実習>

2学期 あゆみ渡しにあたって



親や教師や大人たちが、自分たちの思い通りに子どもを育てれば、子どもたちは他者の思い通りにしか行動できない人間になる。自主性、主体性、創造性といったものは、当然育つはずがない。

まず、子どもたちは、人と自分を信じることができるよう、人生の最初に無条件の愛情に恵まれてから、上等の手本を見せられながら、社会の規範をゆっくり穏やかに教えられるのがいいのだろう。

時代や文化の影響を自分の力で上手に取捨選択できるように、自分の存在価値を実感できるような子どもにしておいてやればいいと思う。

あなたはあなたのままで、他にかげがえのない価値がある。君は君の道を、ただひたすらに歩めば、それで十分である。与えるべきメッセージはそれだけであろう。

結局は、子どもたちは、育てたように育っていく、育っていつてくれる。そう信じられる親になりたい、大人になりたいと思う。

【相田みつを いのちのことは「育てたように子は育つ」より

書：相田みつを 著：佐々木 正美（精神科医）